

回復期病院と障害福祉サービス事業所の 連携による切れ目のない支援について

福祉サービス事業 サムズアップワークス
管理者兼サービス管理責任者 山形 公宏

医療法人 敬愛会 リハビリテーション天草病院
言語聴覚士 石川尚子

リハビリテーション天草病院 当院の紹介

■ 所在地：埼玉県越谷市

■ 病床数：175床
(全棟回復期リハビリテーション病棟)

入院患者の約80%が脳血管疾患

■ セラピスト数 159名
PT：73名 OT：59名 ST：27名



外来リハ部門 一日の患者数 137名 2025年5月実績

失語症・高次脳機能障害に対しての個別リハビリ
就労支援に向けたリハビリとしてジョブリハビリ (特殊外来)

サムズアップワークスの紹介

■ 所在地：埼玉県越谷市

■ 障害者福祉サービス事業所

自立訓練【生活訓練】：定員20名

就労移行支援：定員20名

就労定着支援：定員20名

■ 利用者

男女比 20:18

身体：4 精神：20 療育：14

（うち高次脳機能障害：6）



自立訓練（生活訓練）：生活リズムの安定・金銭管理・コミュニケーション

就労移行：ビジネスマナー・PC訓練・就職活動・面接同行

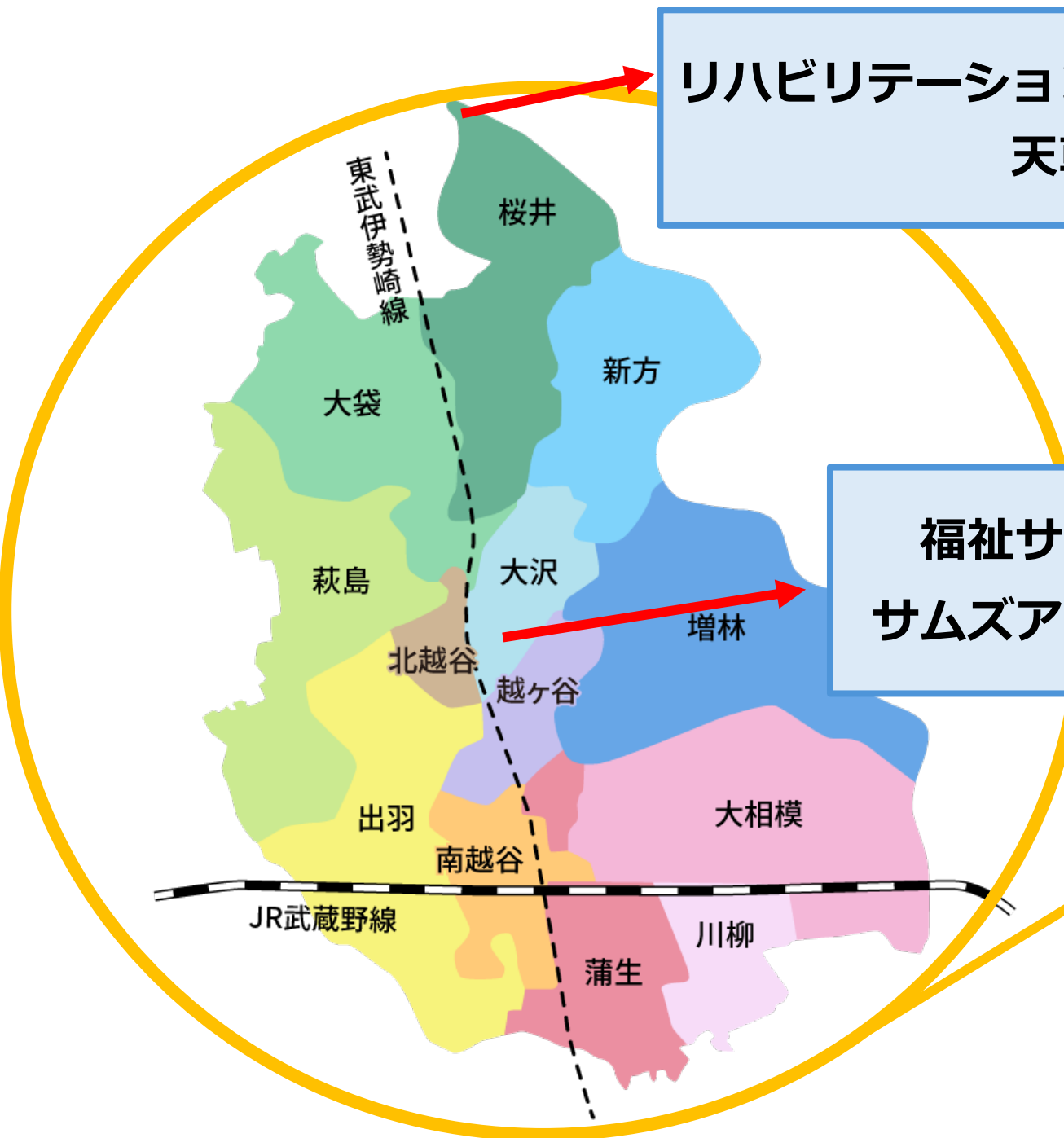
就労定着：継続的な就労環境の支援

リハビリテーション
天草病院

福祉サービス事業
サムズアップワークス

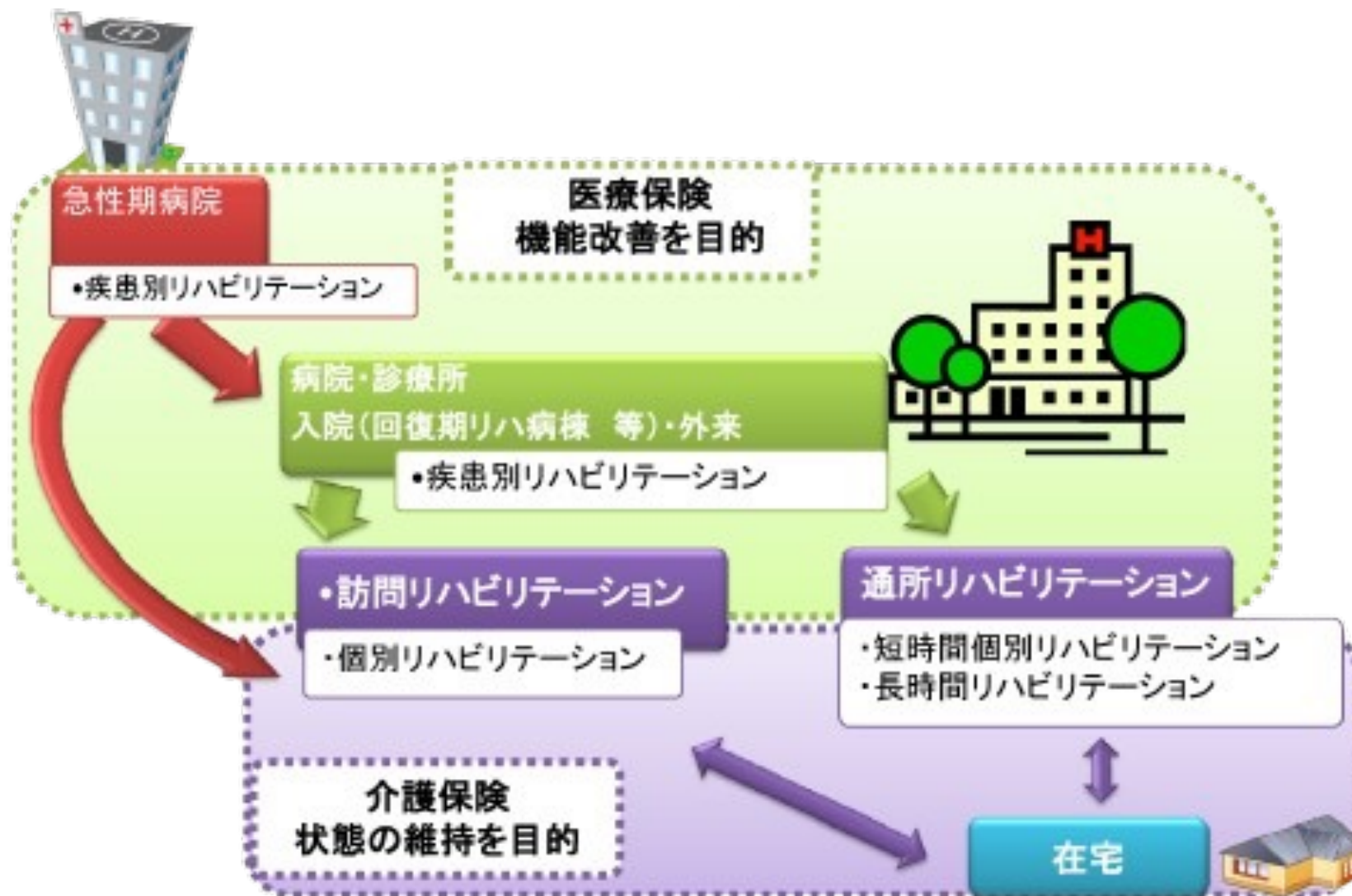


2つの施設の位置関係としては
越谷市内の10キロ圏内
電車：5駅 13分
車：25分



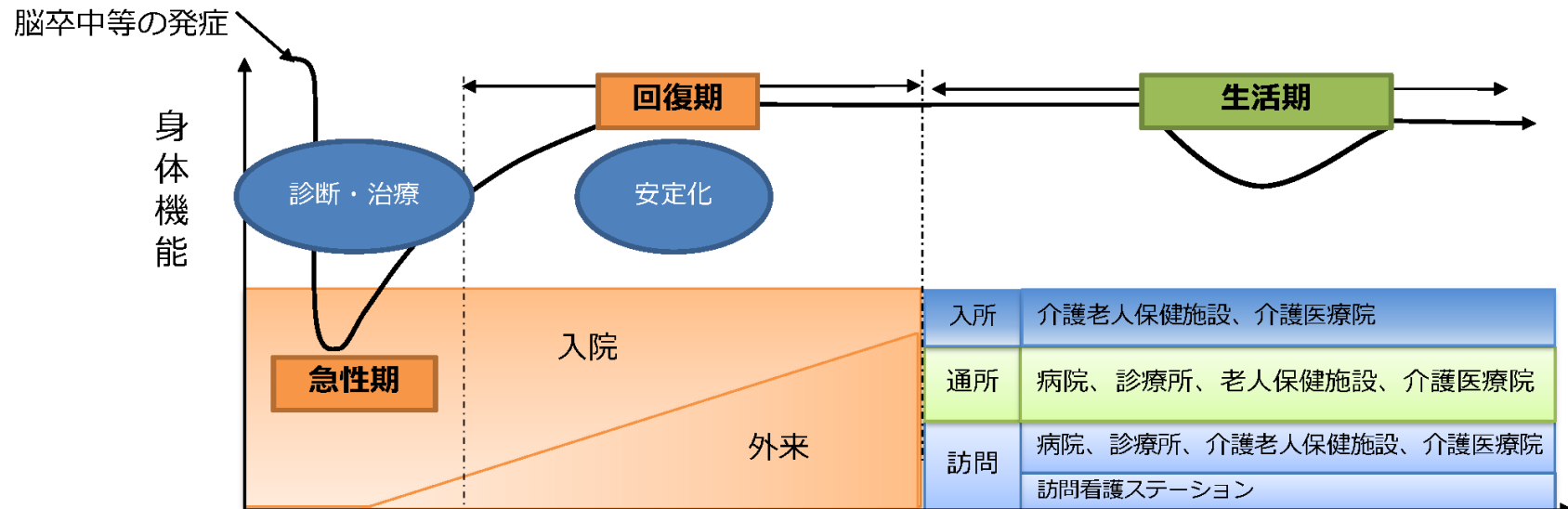
医療と介護の現状

リハビリテーションに関する医療と介護の連携 (医療機関から提供される場合のイメージ)



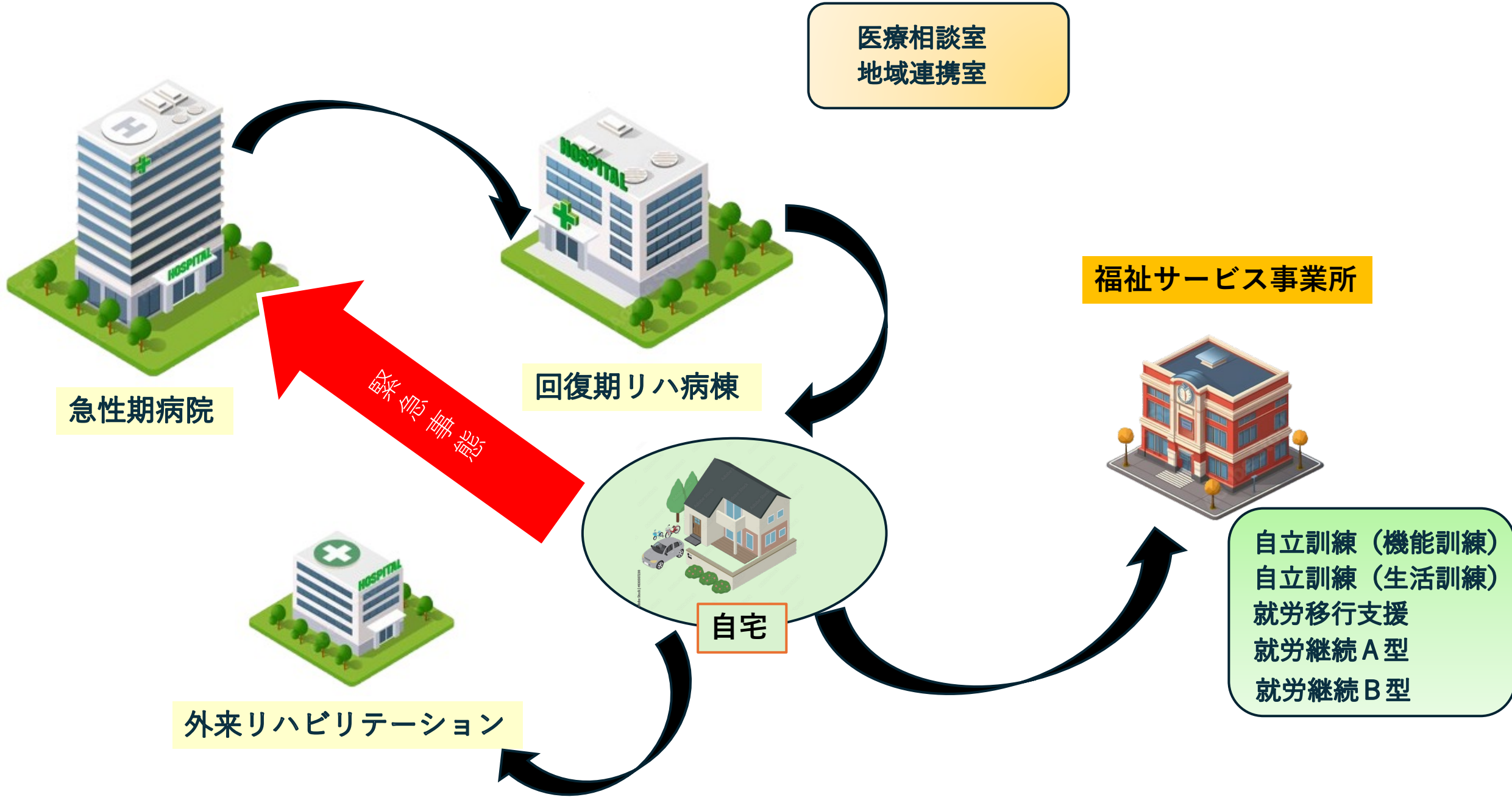
医療と介護の現状

リハビリテーションの役割分担（イメージ）

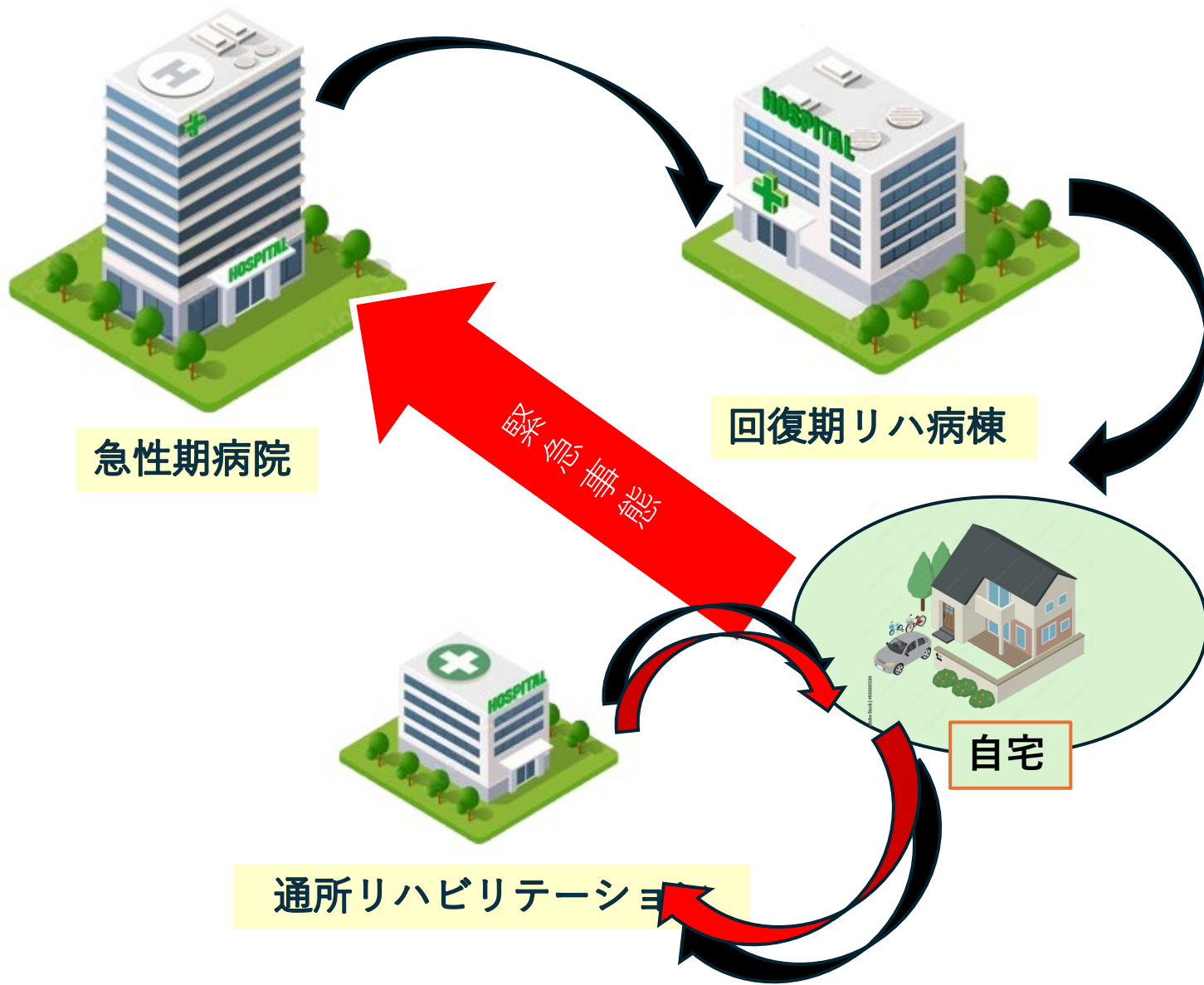


役割分担	主に医療保険		主に介護保険
	急性期	回復期	生活期
心身機能	改善	改善	維持・改善
ADL	向上	向上	維持・向上
活動・参加	再建	再建	再建・維持・向上
QOL	維持・向上	維持・向上	維持・向上
内容	早期離床・早期リハによる廃用症候群の予防	集中的リハによる機能回復・ADL向上	リハ専門職のみならず、多職種によって構成されるチームアプローチによる生活機能の維持・向上、自立生活の推進、介護負担の軽減、QOLの向上

高次脳機能障害と福祉の現状



高次脳機能障害と福祉の現状

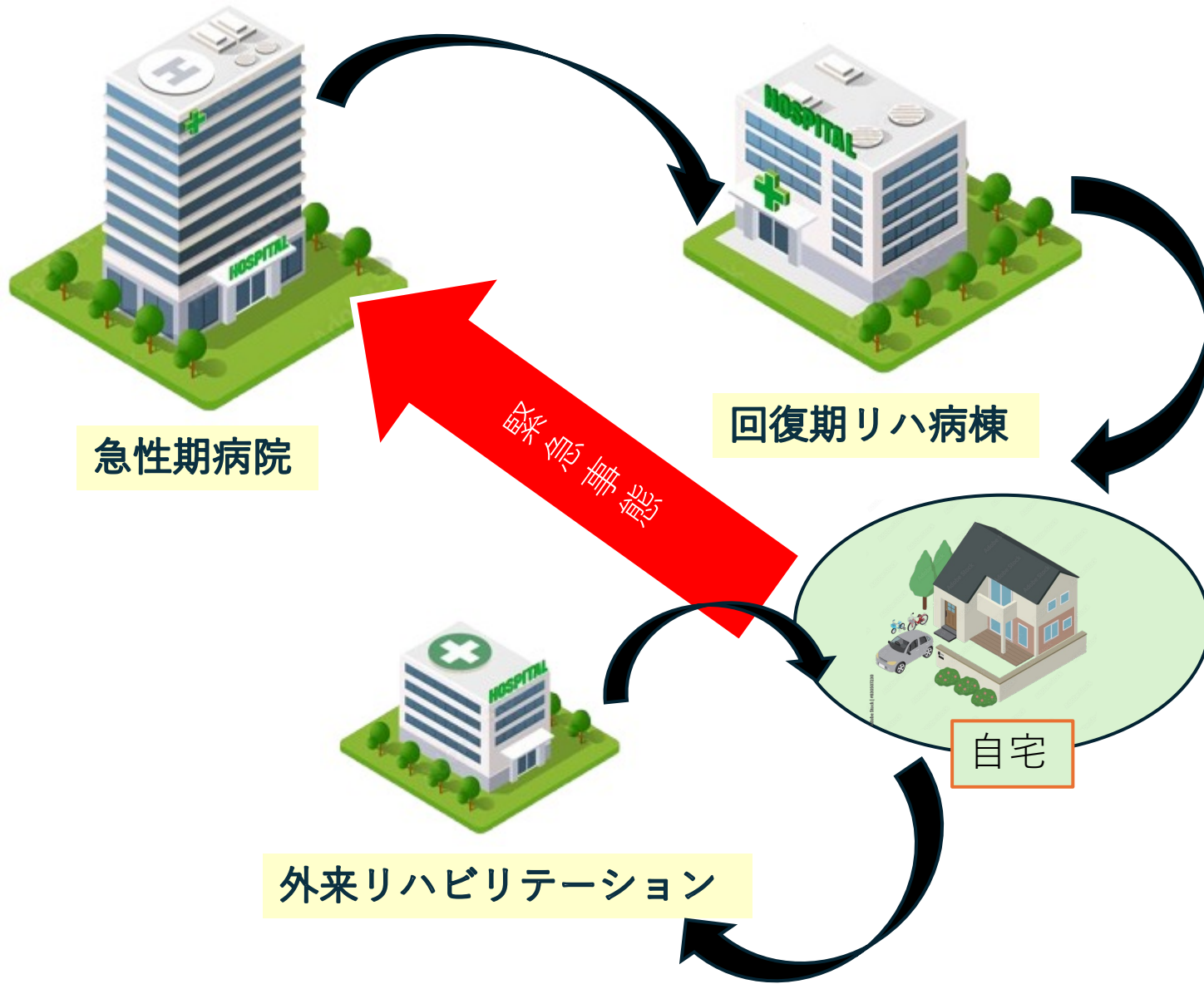


介護保険を利用したの
通所リハビリを利用する

介護保険のサービスと
障害福祉サービスの
併用が出来ることが周知されていない

【キーパーソン】
ケアマネージャー
OT・PT・ST

高次脳機能障害と福祉の現状



当事者がリハビリの必要性を感じていない

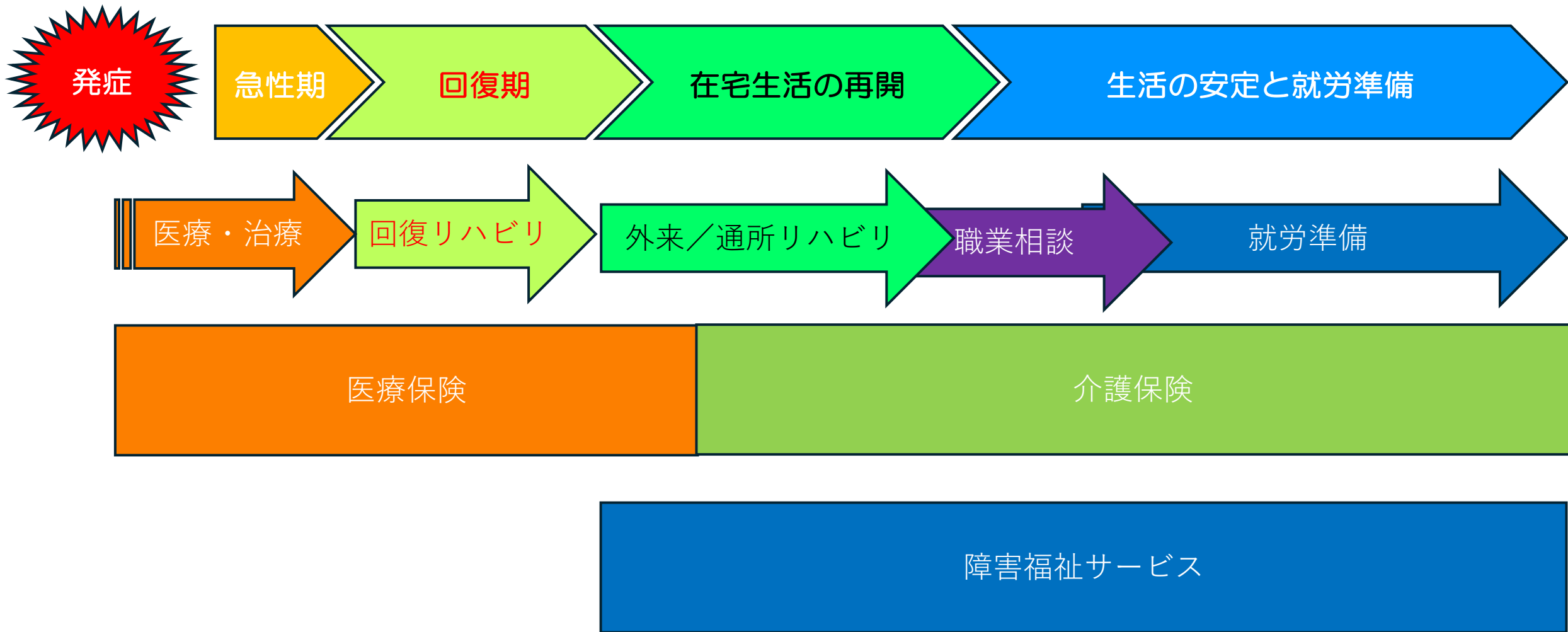
自宅に戻り外部との接触が激減する

障害手帳などの制度や申請方法が分からない

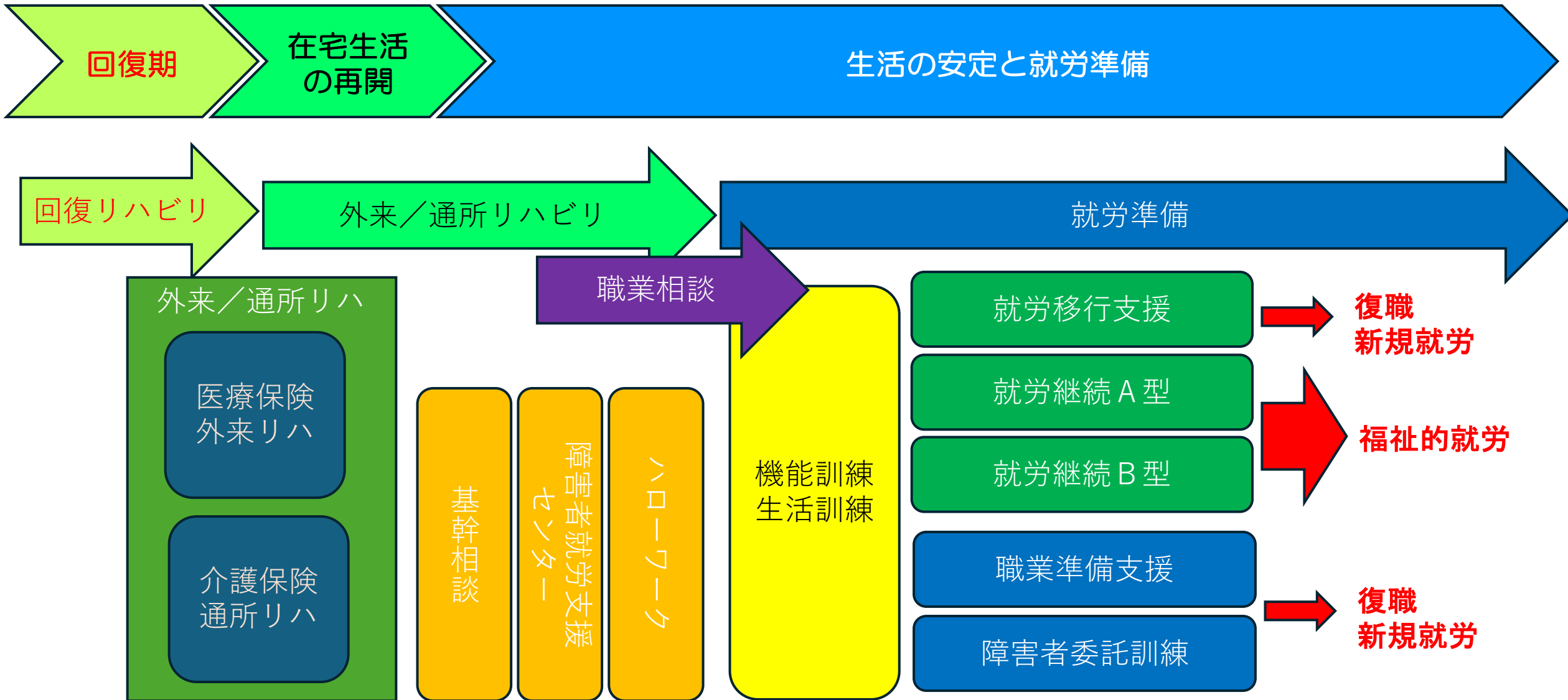
家族や関係者の負担が増える

当事者も障害特性を理解できない

発症から就労までの流れ



就労の支援機関



実践報告

外来リハビリと障害福祉サービス事業所の
連携により就労に至った1例

症例紹介

40歳代 男性 Aさん

診断名：脳梗塞

障害名：失語症

高次脳機能障害（注意障害・遂行機能障害・失行）

既往歴：特になし

現病歴：朝、トイレで倒れているところを発見

急性期病院へ救急搬送され、脳梗塞の診断で入院

発症18日目に当院回復期病棟へ転院となる

職業：会社員（建築設計士）

家族：母・弟2人との4人暮らし



発症18日に当院回復期に転院となる

身体機能：独歩、軽度感覚の鈍麻

失語症：失語症は重度で日常会話はごく簡単なやりとりであれば可能

高次脳機能：注意障害・遂行機能障害・失行

入院中はPT・OT・STによるリハビリを1日2～3時間実施

【復職に向けて】 復職の希望があり、外来でのリハビリを継続することになる

切れ目なく外来への移行ができるよう外来担当者が入院中より介入しに連携を図る



発症106日より当院での**外来リハビリを開始**

S T : 週1回 40分 個別リハ

聞き取り能力・口頭表出能力・書字能力の向上

O T : 隔週 2時間 ジョブリハ

注意力や遂行機能の改善、作業耐久性の向上

発症1年頃：症候性てんかんの発作 ⇒ 服薬でのコントロールを開始

建築士への復職を希望 →

障害者職業センターへ相談

→ 復職を検討をしましたが失語症や高次脳機能障害を考慮した結果、退職となる



新規就労に向けて
会社を退職したことにより
新規就労の希望あり

**A型事業所・B型事業所を
数か所 見学**

**失語症による言語能力の低下やコミュニケーション面の不安
注意力の低下や障害に対する自己認識の低下
体力低下やてんかん発作などの身体的な不安定さ**

→ **就労移行支援事業所の利用の検討**

生活の安定と就労準備

- 紹介を受け事業所を見学・3日間の体験利用
- 20XX年5月から障害福祉サービス受給者証を発行して就労移行支援の利用開始。
- 訓練開始当時は失語症の症状も強く、本人の障害受容も進んでいない。
- 挨拶から始め会話などのコミュニケーションをとる。
- 言語の問題があり、言葉をおもいだしてメモに残すなどする。
- 前職の特徴もあり、アートの時間に絵をかいたり創作したりを得意としていた。
- 得意分野を介して自らコミュニケーションをとる場面が増える。

生活の安定と就労準備

- 本人は欠席する事は無く事業所への通所利用は継続され、PCを自習するなどを行っていた。
- 最初は職員との簡単な単語での会話から本人の趣味などで日常会話を始める。
- 次第に他の利用者とも会話が増え始める。
- 単身での自習から集団での訓練にも参加する時間が増える。
- 幕張ワークサンプルを行い、PCでの言語入力・作業訓練を実施。

⇒本人の特性に気づいていく。

⇒ミスしやすい傾向と対策が出来上がっていく。

⇒本人自ら考えて対策をするように出来てくる。

就職から現在

- A市の地域連携事業を利用して職場実習を始める。
- 利用開始から1年6か月を経過してから就職への意識が始まる。
- B市にある農業法人で障害者雇用を始めたいと事業所に相談があり、企業と本人・就労支援員が協力して就労環境を模索しながら実習を行う。
- 実習を繰り返していく中で雇用先と就労支援員とで作業の切り分けや勤務時間などを行い
20XX年5月にトライアル雇用制度を利用して3ヶ月間の就労しながらの訓練期間に入る。
- この時に就労移行支援の基本期間2年を消費していたので市に延長申請をして訓練開始から
2年3ヶ月を使って20XX年9月に就職へ至り、現在も就労定着支援のサービスを利用しながら
就労を継続されている。

★ まとめ

1、地域のネットワークの構築

- ・ 事業所開設時の営業活動でサービスの内容を紹介
- ・ 高次脳機能障害の支援者・当事者の交流会への参加
- ・ サムズアップワークス主催の勉強会を開催

2、連携の方法について

- ・ 電話でのやりとりが中心
- ・ アプリを利用しての情報共有
- ・ お互いの医療機関や事業所の訪問し、直接情報共有

【お互いどのような情報が知りたいか】

外来リハ⇒福祉・・・発症からの経過や経済状況や手帳・年金等の申請状況
リハビリの訓練内容から高次脳機能検査検査結果。

障害福祉⇒外来リハ・・・通所状況、事業所での訓練内容など